

千葉大学医学部附属病院で膵液検体を採取された 患者の皆様、ご家族の皆様へ

2025年3月25日

消化器内科

現在、消化器内科では「膵液プロテオミクスを用いた膵癌早期診断のためのバイオマーカー探索」に関する研究を行っております。後の診断や治療に役立てることを目的に、この研究では、膵臓疾患患者さんの診療情報や血液・膵液・膵臓組織検体などを利用させていただきます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方、研究に試料・情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2019年1月1日から2025年2月28日までの間に研究課題名「難治性胆膵疾患診断のための包括的な遺伝子変異プロファイルの検討」もしくは「胆膵癌の予後解明における前向き研究について」に参加され、将来の研究への試料・情報の利用及び提供に同意された方

1. 研究課題名

「膵液プロテオミクスを用いた膵癌早期診断のためのバイオマーカー探索」

2. 研究期間

2025年承認日～2028年3月31日

この研究は、附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

膵癌の早期診断は予後の改善において非常に重要といわれています。早期膵癌は膵管拡張や嚢胞など膵癌自体の所見ではなく、膵管拡張など膵癌による間接的所見で発見される機会が多い、画像上明らかな膵腫瘍が指摘できない症例では、内視鏡的逆行性膵管造影(ERP)と連続膵液細胞診(SPAC)による診断が行われておりますが、これらの検査は膵炎のリスクがあり、また複数回の検査を要することもあります。そのため膵液を用いた診断の精度向上や細胞診に代わる新規診断バイオマーカーの創出は喫緊の課

題であると考えております。今回、腭液中のプロテオームを網羅的に解析することで、腭液中あるいは循環血液中の新規バイオマーカー探索に挑戦します。

研究の具体的な方法は、先行研究で二次利用に同意を得た患者さんの試料・情報を利用し、個人が特定できるような情報を削除した上で、かずさ DNA 研究所に提供され、プロテオーム解析が行われます。かずさ DNA 研究所での結果を得て、千葉大学で統計処理を行います。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

過去に採取した血液 7ml, 腭液 1ml, 腭臓組織検体

診療録に記載されている診療情報（年齢、性別、人種、身長、体重、飲酒量、合併症、既往歴、内服薬、生存期間、手術および術後 再発の有無、血液検査値、組織所見、画像所見など）

5. 研究組織（試料・情報を利用する者の範囲）

研究代表機関名	研究代表者
千葉大学医学部附属病院	大山 広
共同研究機関名	研究責任者
かずさ DNA 研究所	川島 祐介

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた試料・情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学およびかずさ DNA 研究所で厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究に関する相談窓口について

研究に試料・情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。試料・情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

消化器内科 講師 大山 広

043（222）7171 内線5241